

# 寝屋川市香里園駅周辺地区まちづくり構想(案)に対する 意見の概要と市の考え方

意見募集期間:平成19年11月15日(木)～平成19年12月14日(金)

意見提出者数 : 7名

意見総数 : 26件

構想(案)全般に関する事	3件
「1. まちの歴史と経過」に関する事	1件
「2. まちの課題とまちの将来像」に関する事	14件
「3. まちづくり施策」に関する事	4件
「4. まちづくり構想」に関する事	2件
「5. 今後の取り組み」に関する事	2件

平成20年2月

寝屋川市まち政策部都市計画室

■意見の概要と市の考え方について（案）

該 当 章	意見の概要	市の考え方（案）
全 般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が抽象的で実感がわかない。課題とその整理だけで遊び心にかけているのではないでしょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの構想として取りまとめたものであり、この構想を実現するためには、今後、産学公民の協働により、本構想の具体化に向けた取り組みを行っていくことが重要であると考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各計画について短期、中期、長期の区切りとそれらの明確な期間を示すべきです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想を実現するためには、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みが必要と考えており、この取り組みの中で、計画的にまちづくりを進めていきたいと考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募委員が少ない。地域関係者だけでなく、今後は検討委員会のメンバーを変え、PDCAサイクルを取り入れるなどにより、持続的に行うべきです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、持続的にまちづくりを行うためには、まちづくりに関心のある多くの方々の参加が不可欠であると考えています。</li> </ul>
1. まちの歴史と経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイエーが「撤退」という表現は不適切であり、“閉店”とするべきです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的には、「撤退」という表現も用いられていることから、案のままの表現とします。</li> </ul>
2. まちの課題とまちの将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香里園は文化都市を目指し、古本屋街をつくって欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想を実現するためには、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みが必要と考えています。この具体化に向けた取り組みの中で、ご指摘の提案も参考にさせていただきますと考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設の集積が更に進むことや、シネコンのような専門性やアミューズメント性の高い施設の立地を十分に活かすべきです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想を実現するためには、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みが必要と考えています。この具体化に向けた取り組みの中で、ご指摘の提案も参考にさせていただきますと考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧国道170号の構造による地域分断を起こしている箇所は、鉄道との交差付近だけでなく、香里南口交差点から成田山境橋口交差点の間も同様です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧国道170号の構造においては、鉄道を跨線橋で超えている箇所と、地形上で東西に高低差が生じている箇所があり、これらの箇所において、地域分断が考えられます。このうち跨線橋については、鉄道の立体化と併せた構造改善が可能と考えられますが、地形上の高低差があることについては、直接地形の変更等は困難であると考えられます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両の分離及び回遊性を持たせるためには、京阪立体交差時の側道利用には十分に留意されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の内容については、今後、連立事業に伴う側道を計画する時に、地元等の意見も踏まえた上で、十分に検討します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京阪線より西側の木屋交野線の歩道は縁石で区切られているだけで、歩きにくいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の内容については、関係機関との協議も行いながら、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性を生み出すため、歩道舗装の美装化だけでなく、デザイン街灯、サイン、信号機なども特徴のあるものにしたらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の7頁にハード施策として「道路舗装の改善」、及び「案内サインや休憩施設等の設置」を記載しており、この中で、特徴となるものなども考慮しながら、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>	

■意見の概要と市の考え方について（案）

該 当 章	意見の概要	市の考え方（案）
	<p>・八坂松屋線の近隣開発等による酷い渋滞について考慮された図となっていない。香里園駅から香里駅前線を経て、八坂松屋線に左折1回のみで到達できるよう、廃止された都市計画道路（郡萱島線）の復活を盛り込むべきです。</p>	<p>・ご指摘の都市計画道路郡萱島線の一部区間については、既存の道路により代替ルートが確保出来ていることから、平成17年度に都市計画の変更手続きを経て都市計画の廃止をしたものです。</p>
	<p>・バス路線が少ないだけでなく、既存路線の本数や運転時間の充実も盛り込むべきです。</p>	<p>・本構想（案）の7頁に「バスサービス充実を図るための、バス路線編成等について事業者との協議」と記載しており、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みにおいて、バスの本数の充実等も視野に入れ、関係機関との協議を進めます。</p>
	<p>・人の横断需要があるところに信号機がありません。（再開発地域から香里園町方面やライフ前、及びライフ前と三井住友銀行の間など）。</p>	<p>・ご指摘の内容については、関係機関との協議も行いながら、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で、検討してまいります。</p>
	<p>・業種によっては集積が進みマグネット効果が出ているが、不足している業種の誘致が必要です。</p>	<p>・本構想（案）の6頁において、魅力ある施設の立地や一店逸品運動の検討などを記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</p>
	<p>・街灯が少ない。LED街灯など防犯効果があり、消費電力の少ないものを導入して先進的な街路に再生したらどうでしょうか。</p>	<p>・本構想（案）の6頁において、防犯灯の設置について記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</p>
	<p>・旧国道170号線を構造改善しない場合は、南側の法面にボリュームのある木を植え、緑のラインにするなどの検討すべきです。</p>	<p>・本構想（案）の7頁において、公共空間における植樹を記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で、樹木の管理も考慮した上で、ご指摘の箇所も含めて検討します。</p>
	<p>・バス路線については、地域の利便性の向上と多方面からの集客性の向上の両面から検討すべきです。特に淀川新橋周辺地域は、バス路線を充実させることにより、香里園駅が最寄駅となることに着目すべきです。</p>	<p>・構想（案）の7頁に「バスサービス充実を図るための、バス路線編成等について事業者との協議」と記載しており、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みにおいて、バスの路線編成等について関係機関との協議を進めます。</p>
	<p>・踏切除却により安全で便利になると思います。</p>	<p>・京阪本線の連続立体交差事業を行う事により、踏切が除却され、踏切による事故や渋滞の解消、沿線地域一体化が図れることとなります。従いまして、京阪本線連続立体交差事業は、本構想の実現に欠かせない事業です。</p>

■意見の概要と市の考え方について（案）

該 当 章	意見の概要	市の考え方（案）
3. まちづくり施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や主婦、お年寄にとって、買い物が楽しめる魅力ある商店街にして欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の6頁のまちづくりの方向性において、「駅周辺は大人も子供も楽しめ、安心、安全で、にぎわいのあるまち・香里園を創る」と記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して買物ができる商店街となるように、アーケードなどを整備して欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の6頁のまちづくりの方向性において、「駅周辺は大人も子供も楽しめ、安心、安全で、にぎわいのあるまち・香里園を創る」と記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いて買物をする人を増やすため、周辺にあるスーパーなどと連携した魅力のある商店街として欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の8頁に回遊性のあるまちを創ることを記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して住めるまちにするために、隣近所の付き合いを深め、住民同士で高齢者などの見守りをするようにしていくことが必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の7頁のまちづくりの方向性において、「地域のコミュニティを育む」と記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
4. まちづくり構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層住宅における、子どもや高齢者などの外出減少や地域コミュニティとの連携の希薄化など、高層住宅が有する問題による住環境悪化とならないよう、配慮することが必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の7頁のまちづくりの方向性において、「地域のコミュニティを育む」と記載しています。今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤や通学などで、人通りの多い道路の歩道を広げて欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の内容については、関係機関との協議も行いながら、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みの中で検討します。</li> </ul>
5. 今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチフレーズの「住んでいるあなたが主役のまちづくり」について、香里園は成田山や大規模商業施設などに多数の外来者がいるため、住んでいる人を対象にするだけのまちづくりでは、方向性が一貫していません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、香里園は成田山や大規模商業施設など多数の外来者がいることも視野に入れたまちづくりが必要であると考えています。「住んでいるあなたが主役のまちづくり」というキャッチフレーズの主旨は、住んでいる人だけを対象としたまちづくりをするものではなく、今後市民の方々も積極的にまちづくりに参加して頂くために掲げたものです。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は行政だけでなく、市民も積極的に、かつ、中心となってまちづくりに参加していくことが大切です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想（案）の10頁に記載しています。ご指摘の通り、今後、産学公民の協働による本構想の具体化に向けた取り組みを進めていくことが、必要不可欠と考えています。</li> </ul>